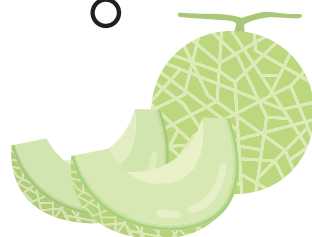


メロンを能勢町の特産品へ。

能勢を担う農家を目指します。



Q 始めたきっかけについて聞かせてください。

A 幼い頃から祖父の水稲を手伝っており、農業に関心を持っていました。そして農学部に進学し、卒業した2014年に

生業として始めました。主要品目のメロンは大学教授の進言もあり、2019年より始めました。現在は妻と両親、3人の兄弟の6人で8haの農園を管理しています(大輔さん)

Q 私も夫と同じ大学で農学部を専攻していました。そこで

夫と出会い、2016年の結婚を機に、枚方市から能勢町に移住して農業を始めました(沙希さん)。

Q 生産のこだわりについて

A 堆肥作りにこだわっています。私たちは農業と造園業の兼業農家をしています。植木剪定で出た枝くずを利用し、

化成肥料を極力使用しないよう取り組んでいます。メロンについては味の凝縮、形・大きさの均一化のため、一果採り二本の木に二玉の実をならすを行っています。また、自動灌水システムを導入したスマート農業を取り入れ、水分・養分の正確な調整を行っています。10月に旬を迎える黒枝豆は、丹波黒を栽培しています。能勢町は丹波地方と昼夜の寒暖差などの気候が似ており、丹波黒の栽培に適しています。また、自動脱莢機を導入し、生産の効率化を図っています(大輔さん)。

Q 苦労していること・嬉しかったことはありますか。

A 苦労していることは、獣害です。この地域では、鹿・ネズミ・モグラなどたくさんの動物が生息しています。モグラの掘っ



た穴からネズミがメロンハウス内に侵入し、実をかじられ、そこから病気に感染してしまいうこともありました。メロンの栽培当初は秋作にも挑戦しておりましたが、うどんこ病になり、夏作の約10分の1しか収穫できませんでした。現在メロンの秋作は止め、代わりにホワイトコーンを栽培して、無駄のないようにしています(大輔さん)。嬉しかったことは、お客様にお褒めの言葉をいただくことです。私たちの農園では、メロンの直売所も運営しております。お客様と対面でお話しする機会が多く、生の声を

地域の農を支える生産者

能勢町大里地区

にしかわ だいすけ
西河 大輔さん(32歳)
さ き
沙希さん(32歳)



スマホのクラウドで操作するスマート農業を取り入れる



太陽熱を利用し、土壌中の病原菌や雑草の種子などを死滅させる

聞くことができます。その際に、「お土産として重宝している。能勢でメロンを作ってくれてありがとう。」とおっしゃっていただけました。地域に貢献出来て、お客様に喜んでいただけている、そう実感できてとても嬉しかったです（沙希さん）。

Q これからの目標や夢をお聞かせください。

A 能勢の特産品としてメロンを普及させていきたいです。そのために農園を法人化して、従業員を雇い、もっと大規模に、そして自信をもって美味し

主な栽培品目

メロン・黒枝豆・米
キャベツ・トウモロコシ 他

いと言えるものを栽培していきたいです。お客様にはぜひ、地元のをたくさん消費していただき、地域農業と一緒に盛り上げていきたいだけば幸いです（大輔さん・沙希さん）。